

現状と課題

■自然環境

- 過密人工林における生物多様性の向上
- 多様な野生動物が棲める環境の確保
(小規模かつ点在する自然林や二次林)
- 増加する獣害に負けない対応
(クマ、シカ、イノシシ、サル等)

■社会環境

- 地域主導による森林の機能区分の設定
(市町村森林整備計画の変更)
- 市場ニーズに応える木材の商品化
(地域ブランド「三河材」、高齢級材の活用)
- 地域の担い手確保(高齢化、人口減少)
- 減少傾向にある入込客数の増加

目指す地域の姿(共通テーマ)

樹を活かす、地域を活かす、森のちからと人の営みが調和する奥三河

広大な森林をはじめとする自然資源や、伝え受け継いできた民俗文化資源を活かした、持続可能な地域の具体的なイメージ(例えば、多様な生きものが棲める自然の中で営む農林業によって、担い手の暮らしや伝統行事が支えられている集落、等)の共有を図ります。



健全な森林生態系の保全・創出

人の交わりを通じた地域の担い手創出

人と野生動物の棲み分けの検討

検討テーマ・内容

「健全な森林生態系の保全・創出」「人と野生動物の軋轢緩和」、それらを支える「人の交わりを通じた地域の担い手創出」をテーマとし、成功事例に学びながら、新城設楽地域における「森・生きもの・人が共生する持続可能な地域づくり」について、実現するための方策を探ります。

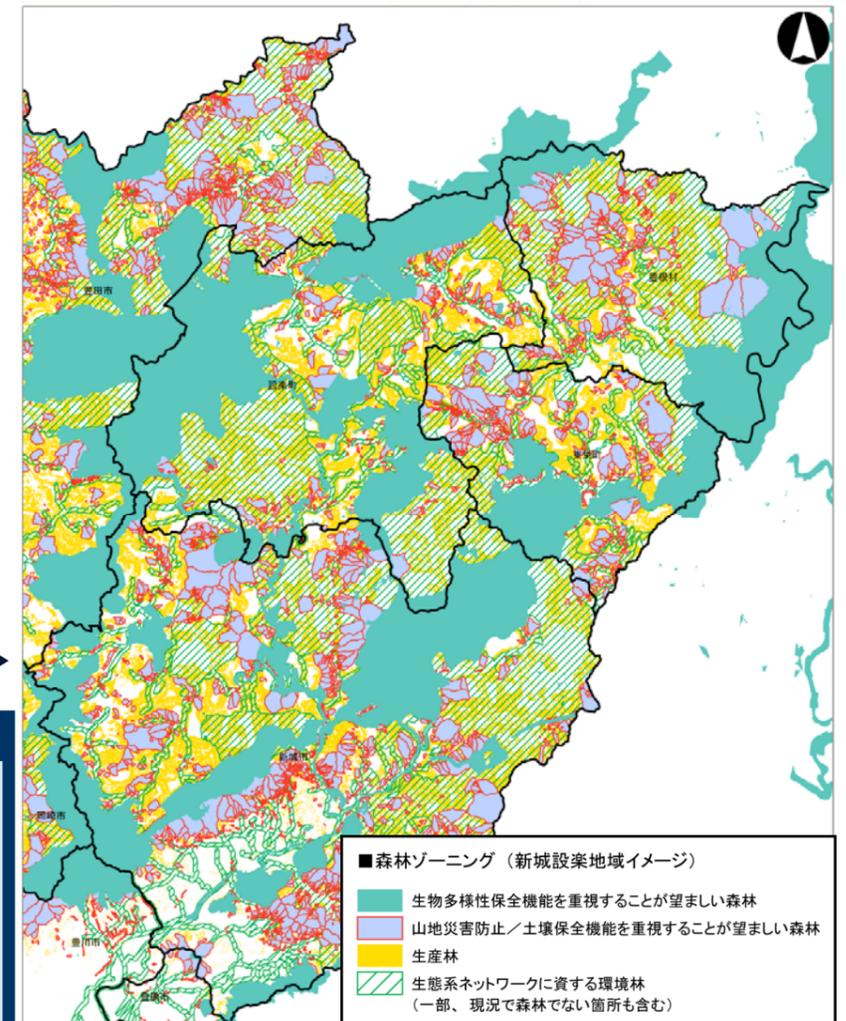
- 生物多様性保全、山地災害防止・土壌保全を前提とする森林ゾーニングの実行スキーム検討
 - ・地域森林計画、市町村森林整備計画、森林経営計画との調整
 - ・豊川水源基金「水源林保全流域協働事業」の活用
 - ・段戸ほか国有林との連携
 - ・「あいち森と緑づくり税」の活用
- 人工林の針広混交林化、主伐後の部分的な広葉樹林化
- 川上から川下まで一体となった三河材の商品デザイン

モデル事業
木の駅プロジェクト

- 「きてみん！奥三河」「三河山間交流居住推進事業」「極・奥三河」「奥三河再発見ツアー」「奥三河田舎暮らし隊」など、関連する取り組みとの連携、情報交換
- ・ジェントリフィケーション(都市から人を呼び込む仕組み)の模索
- ・地域の自然・文化資源の掘り起こし、活用(奥三河星座論)

- 現地調査から得られたデータに基づく効果的な対策の検討
 - ・農業者等への情報提供、啓発
 - ・科学的根拠に基づくネット、電気柵、わなの設置
 - ・除伐や刈り払いによるバッファゾーン整備
 - ・レンタカウ制度等の試行
- 獣害対策と絡めたエコツアー
 - ・草刈り応援隊、柿・栗採りツアー等

モデル事業
▼地域ぐるみの捕獲推進モデル事業(獣害トリアージマップの作成)



実現に向けた進め方

多様な主体のコーポレーション(協働)によって、持続可能な地域づくりに向けた積極的な活動を行います。

地域への提言 (持続可能な地域づくりの提言をしていきます)

モデル事業の実施 (楽しみながら目標に向けた事業を行います)

地域全体での展開 (多様な主体の取組参加を目指します)

新城設楽生態系ネットワーク協議会会員

愛知大学/NPO 法人 てほへ/NPO 法人 東三河自然観察会/NPO 法人 穂の国森林探偵事務所/NPO 法人 穂の国森づくりの会/NPO 法人 森づくりフォーラム/奥三河自然保護研究会/新城キックリズ/一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム/ガステックサービス株式会社(サーラグループ)/コマツハウス(株)/中日本高速道路株式会社/横浜ゴム株式会社/新城市/設楽町/東栄町/豊根村/愛知県